歴史総合-DX

 **1949年④（昭和24） インド・パキスタンの建国**

終戦から1年もたたない1946年（昭和21）7月、イギリス植民地だったインドの商業都市ムンバイ（ボンベイ・当時）でヒンズー教徒とイスラム教徒の間で大衝突があり、その後も対立は激化の一途をたどった。また、軍事裁判で、日本軍とともにインド国民軍を率いて宗主国イギリスからの独立を試みたインド人将校らが、 植民地政府から反逆罪で罪を問われると、インド国民が大いに怒り、人権派弁護士のマハトマ・ガンディー（ガンジー、インド独立の父）がインドのイギリスからの独立を主張、 その独立運動はインド全土にひろがり、翌年の1947年（昭和22）8月、イギリスが施政権を手放し、8月14 日に、インド亜大陸は2分割され、イスラム教徒の住むイスラム国家が分離独立して「パキスタン」が建国され、その翌日には、イギリス連邦（国王はイギリス国王）内のインド連邦としてインドが独立し、「宗教間の協調」を掲げるガンディーの努力の結果、特定の宗教に偏らない国家として建設され、憲法は宗教に基づく差別を禁止され、インドに残ったイスラム教徒は平等な市民として扱われることとなった。その後の10月、両国の間にあるカシミール地方の帰属をめぐり、ソビエトが支援するインドと中国が支援するパキスタンの両国で紛争（第一次印パ紛争）が勃発、翌年1月に両者の紛争は停戦となったが、紛争の終息過程で中立的立場を貫いた非暴力主義者のガンディーがヒンドゥー教徒のインド人の逆恨みで1月末に暗殺された。その後、 1950年（昭和25）にパキスタンは、イギリス連邦からも完全に独立を果たし、1951年（昭和26）は、インドも同様にイギリス連邦から独立を果たし、初代のインド首相に非同盟主義のネール首相が就任した。インドとパキスタンの間の山岳地帯のカシミール地方は、イ ンド独立（1947）まで支配していたヒンドゥー教徒の藩王（地方君主）が独立国家をめざしたが、パキスタンの侵攻でインドへの帰属を選択し、ジャム・カシミール州は憲法で自治州（2019廃止）となったが、カシミール地方の3分の1を実効支配するパキスタンと犬猿の仲のインドで紛争が絶えず、また、1962年(昭和37)には中国とインドとの間で国境紛争（中印紛争）が生じ、1964年（昭和39）に中国が核実験に成功して5番目の核保有国、1974年（昭和49）にインドが6番目の核保有国、1998年（平成10）にパキスタンが7番目の核保有国となった。